

# STEP-UP

平成26年度 第1号12月  
大田区立幼児教育センター  
幼児教育担当(5744-1618)

保育園、幼稚園、小学校では、運動会や学芸会などの大きな行事を体験し、先生方は、一段と成長した子どもたちの姿を頼もしく感じられていることと思います。

さて今号では、今年度の保幼小連携合同研修会のまとめと、保幼小交流活動の様子、幼児教育センター事業の一つである小学校支援活動をご紹介します。

## 保幼小連携合同研修会(7~8月) ー保・幼・小の滑らかな接続に向けてー

下記の表は、保幼小連携合同研修会9ブロックで協議した内容の抜粋です。

事前の「接続に関するアンケート調査」の、「就学前後に身に付けておくことが望ましいと思われる子どもの力」についての問いに対して、それぞれの機関が特に大事だとして挙げた二つの育てたい力に焦点を当ててまとめました。

また、下表では、協議会で話し合われた様々な子どもの姿の中から、「自分で考えて行動して欲しいと思う姿」と「具体的な指導」について取り上げています。

### ＜学級集団の中で、自分で考えて行動する子どもを育てる ー子どもの姿と具体的な指導・支援ー＞

	自分で考えて行動して欲しい姿	具体的な保育者・教師の行動と言葉かけ
話を聞く・思いや考えをいっしょに	○全体への話を、自分のこととして聞く。	☆子どもが聞く姿勢になるよう、落ち着く環境を整えるなどの手立てを行う。 ☆聞く時間、話す時間を設けてメリハリをつける。 ☆話を聞く時の約束を伝える。(姿勢を正す：グー・ピタ・ピンなどのキーワード、指導者が前に立ったら大事な話がある、等) ☆始めに幾つ話をするか知らせ、短く簡潔な言葉を遣う。また、伝え過ぎて情報量過多にならないよう留意し、必要な時に必要なことだけを言うよう心掛ける。 ☆「聞き方名人になろう。」と意欲を刺激し、「今は何をやる時?」「友達を見てごらん。」などの声をかけて聞くことを意識させる。声の大きさを変えたり、急に黙ったりすることで、子ども自身に「聞く姿勢」に気付くようにさせる。
	○言葉の意味を考え、イメージをもつ。	☆行動を伴うことは、言葉とイメージが合う様に、実物や絵カード等を使って見本や工程を見せるなど、視覚的な工夫をする。
	○自分の気持ちや考えを言う。	☆子どもの話をよく聞くなど、子どもが、自分から言いたくなるような手立てを工夫する。 ☆自分から話せない子にはこまめに声をかけるようにし、言えるまで待つ、言えたら褒める、一緒に言うなど、個に応じて支援する。 ☆言葉で表せない時は「それでどうしたいの? (思い)」「だからどうするの?(行動)」などを問いかけ、言葉を誘導する。幾つかの言葉を出して選択させる。
	○集団の場で発言する。	☆朝夕の会、考えや作品紹介の場などを設け、発言したり、話を聞いたりする機会をつくる。
	○相手の話を聞き、順番を待って発言する。	☆話をする時のルールをつくる。(相手の話を最後まで聞いてから話す、始めに「話します」と宣言する、「話してもいいですか」と了解を得るなど)
	○自分たちでトラブルを解決しようと話し合う。	☆トラブルは、子どもが自分の言動を振り返れるように受容を心掛ける。「どうすればよかったのか」を考える時間を十分に取ってから、指導者の考えも伝えるようにする。



研究協議会の様子

○時間内に着替えや準備等、基本的な生活習慣を行う。

○指示や説明を思い出しながら行動しようとする。

○時間を意識し、見通しをもって行動する。

○今することを知り、気持ちを切り替える。

☆就学に伴い生活が変わるので、できていたこともできなくなることがあると受け止めて支援する。着替え等、保幼でできていることも、改めて丁寧に手順を教える。  
 ☆作業の手順カード、板書、時計の針、タイムタイマーなど視覚的な教材を使ったり、短く簡潔な言葉で指示・説明したりするよう工夫する。  
 ☆時間に間に合ったことだけでなく、頑張っていたこと、最後までしっかりやれたことも褒める。

☆「どうすればいいと思う？」と聞き返して、自分で思い出したり考えたりさせる。自分で気付いた時には「そうだね」と認める。

☆始めのうちは声をかけ、その後は自分で気付くまで見守りながら待つ。

☆前もって終わりの時間を伝える。(いつまでにやる)

☆待っている友達がいることに気付かせる。

☆早く終わると、次に楽しい活動が始まることを知らせる。



＜保・幼と小の生活：言葉のかけ方の違いの一例＞

小学校でしっかり教えてくださることを知り、互いの思いの違いが多少あっても、保幼小共、繰り返しの指導が大切であることと、引き継ぎが大切であることを実感しました。



保育園・幼稚園



小学校

話し合いや子どもたちの姿を通して、保幼がきめ細やかに支援していることが分かりました。これからも、連携を密にしていきたいでしょう。

**参加校長先生方のお話 (研修会の開講・閉講挨拶の中から抜粋)**

- 保育園・幼稚園と小学校ではそれぞれ学びのスタイルが違っている。互いの教育の違いを理解し、何とかしていこうとすることが大事である。
- 1年生は、校内では一番年下として対応されるが、園児たちが来ると面倒を見る立場になり、普段見られない自信に満ちた姿を見せる。保幼小の連携を大事にしたい。
- 主体的な生活のためには、「見通しがもてる」「聞く時間を意識させる」「自分で決められる」ことが大事である。そのために指導者は、「言葉・笑顔・頷き」を日常的に散りばめ、子どもたちを褒めて自信を付けること、「失敗は当たり前」と思い再挑戦させることが大事である。

**保幼小の交流活動 —初めまして—**

＜1学期の交流＞

「保育園のお友達と一緒に遊びたい!」と、1年生は一生懸命遊びの内容を考えていました。当日、保育園児にルールを分かってもらおうとする1年生の表情は真剣そのものなのですが、初めての交流活動なので、1年生の言葉はなかなか保育園児に伝わらず、共通理解することは難しいようです。時間が経つにつれ、保育園児は経験したことがある遊びに親しみをもったり、1年生提案による新しい遊びの面白さに気付いたりし、1年生という憧れの存在に少しずつ心を通わせていきました。



1年生と一緒に「ジャンケン列車」言葉ではよく分からなくても、動き出せばすぐ分かります。

**小学校支援活動について**

この活動は、子どもたちが保幼から小へ滑らかに接続していくことを願い、双方の機関で必要な指導の工夫や配慮などを調査・研究するために始まり、今年度で6年目となります。

これまで協力を申し出てくださいました多くの小学校の先生方のお力をいただき、保幼小連携合同研修会に繋がったり、情報誌で接続期の子どもたちの姿を知らせたりしています。徐々に学びを自覚し、たくましく成長していく1年生の姿が見られます。また、保幼小交流のコーディネーターも行っています。



支援活動の一コマ、図画工作科の授業。児童が授業に向かう姿勢になるよう支援する。

**ありがとうございました**

取材協力 大田区立久が原保育園 久原小学校 東蒲小学校